

令和４年度 千歳市市民評価会議議事録

会 議 名	市民評価会議（第６回）		
日 時	令和４年７月４日（月）１４：００～１６：３０	場 所	市役所本庁舎２階庁議室
出 席 者	市民評価委員 ６名、アドバイザー １名、事務局 ３名		

評価対象 施 策	（１）広域行政の推進 （２）航空機騒音対策及び防衛施設周辺対策の推進 （３）ごみの発生抑制とリサイクルの推進 （４）適正で効率的なごみ収集・処理の推進 （５）快適な学校施設の整備
会議概要	５施策について、第２回及び第３回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。 今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第８回市民評価会議に諮ることとした。

ヒアリング・評価内容

（１）広域行政の推進

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

どの施策にも言えることだが、きちんと事業に取り組んでいても、市民にあまり伝わっていないというのはもったいない。

【委員Ａ】

マスコミの存在は大きい。昔は千歳民報社があり、地域の広報をやってくれていたが、現在はない。私が知っている範囲では、地域の情報を提供しているのは「ちゃんと」や「広報ちとせ」くらいである。行政が行っている情報提供は、ホームページなどのインターネットがメインとなっているので、もう少しわかりやすいＰＲが必要だと思う。

【委員Ｂ】

民報がないというのは大きい。新聞は一面を広げると、様々な情報をさらっと一目で見ることができる。

【委員Ｃ】

民報は千歳・恵庭・苫小牧の情報が載っているので、それぞれの市がどんなことをやっているのか大まかなことがわかる。

【アドバイザー】

委員Ｃから「北海道電子自治体プラットフォーム事業」の周知について意見があったが、これは「費用面の情報開示」も含んでいるので、上記のＰＲとは別に報告書に記載してよい。

【委員Ｂ】

記載してよい。

【アドバイザー】

委員の数名から、千歳市が中心となり、近隣自治体と連携した取組を行ってほしいとの意見があるが報告書に記載してよい。

【委員Ｂ】

今回ヒアリングを行った施策の中にも、広域的な事業がいくつかあった。広域行政の担当課だけが取り組むのではなく、他課と連携して進めてほしい。全庁的に取り組んだほうが、市としても動きやすいと思う。

【アドバイザー】

他課との連携を図りながら、広域行政を進め、その中で千歳市が中心となって取り組んでいく事業を見出してほしいと記載する。

【委員Ｂ】

広域行政は、市民にとってどんなメリットがあるのかをわかりやすくしたほうがよい。

【委員Ｄ】

パンフレットやロゴなどに広域と書いてあっても、どこの地域が連携しているのかわからないので、具体的な市町村名を明記してもらえるとわかりやすい。

【委員Ａ】

広域といっても、千歳市が中心なのか、札幌市や他の市町村が中心なのかわからないので、千歳市との関わりや立ち位置を示してもらえるとよい。

（２）航空機騒音対策及び防衛施設周辺対策の推進

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

山北委員の意見で「千歳市に必要な事業を絞り込んだうえで補助を活用している」とあるが、この点は、数年前に評価を行ったときと比べて評価できる。

【委員Ａ】

意見を言うとしたら、エアコンの問題くらいである。学校施設の防音対策を行ったことで、子どもたちは、夏の暑い中でも窓を開けずに授業を受けることになる。

【委員Ｅ】

学校施設の担当課と連携し、エアコン設置について防衛省に要望を行う必要があるのではないかな。

【委員Ｃ】

公共施設では、窓は開けないこととなっており、建物の空調システムで対応している。

【委員Ａ】

北海道内でも熱中症の事故が起きているので、市独自の対応も必要になってくるのかもしれない。

【アドバイザー】

防音対策をすることだけがゴールではなく、それにより起こった弊害の解消など、市民ニーズを反映させるため、国との折衝を行ってほしい旨、記載してはどうか。市独自の対応については、「快適な学校施設の整備」の報告書に記載したほうがよいと思う。

【委員Ａ】

防音工事を待っている世帯もまだたくさんいる。

【委員Ｃ】

情報発信についても記載してほしい。例えば、千歳市は予算の確保や制度の見直しについて、国に対し要請を行っているが、市民にもそれを周知することが必要だと思う。

【アドバイザー】

「移転跡地の利用」についてはいかがかな。

【委員Ｂ】

効果的な活用を検討してほしいと報告書に記載する。

【委員Ｃ】

民間企業に対しても周知したほうがよいのではないか。

【委員Ｂ】

移転跡地について知らない市民もたくさんいると思うので、周知したほうがよい。また、間口を広げることでアイデアも多く集まる。

【アドバイザー】

委員Ｅの意見に「航空機騒音対策で他市町村より恩恵を受けて生活していることを、もっと市民に周知したほうがよい」とあるが、市民は恩恵を受けていると市から発信するということではなく、市民としてそのことを理解しておくべきという意味か。

【委員Ｅ】

そうである。

【委員Ａ】

建設関係では、よく「この道路については防衛省からの補助事業で行っています」とのＰＲ文を見かける。除雪機やバスにも記載してある。このようなＰＲを活用するのもよいが、「～事業」と書いてあっても市民はわからないので、わかりやすい文言に変えて記載したほうがよいと思う。

また、防衛省からの助成金が千歳市に還元され、何に使われているのか記載された一覧表があるとわかりやすい。

【委員Ｄ】

毎年、広報に市の予算が載っているが、自分の周りに載っていると伝えても、見る人が少ない。難しいとは思いますが、それを見てもらうための工夫が必要だと感じる。

【アドバイザー】

皆さんのお話を聞く限り、どの助成金を使ってどんな事業を行っているのか、広報には単発的に出てはいるが、それがまとまった一覧はないように思う。市民がアクセスしやすいものがあるとよい。

【委員Ｂ】

一覧があった場合、それに導くことが重要である。

【委員Ａ】

人が集まるところにポスターなどを展示して周知するのがよいのかもしれない。

【委員Ｂ】

個々の事業の資料やパンフレットに、その一覧につながるＱＲコードなどを載せて誘導するのもよい。

（３）ごみの発生抑制とリサイクルの推進

・評価結果「維持」

【委員Ａ】

リサイクルやごみの分別をしてメリットが感じられるように工夫したＰＲをしていく必要がある。

【委員Ｂ】

ごみで得た収入の使い道や集めたごみを何にリサイクルするかなど、目的をはっきりさせることができる市民のモチベーションが高まると思う。

【委員Ｄ】

市民の協力なくして成立しない事業だと思うので、市民に対しての啓発活動及びその方法を工

夫することが重要である。

【委員Ｂ】

時代に即した事業展開が必要だと思う。

【アドバイザー】

委員Ｃの意見にある「従来の手法を踏襲するだけではなく、先進地の取組を取り入れる」ということについて、意見として記載する。

【委員Ｂ】

LINEやアプリの活用についても記載してほしい。

【アドバイザー】

ごみの問題は行政だけが行うものではないので、市民、事業者、行政等の各々の役割や連携についても記載する。

（４）適正で効率的なごみ収集・処理の推進

・評価結果「維持」

【委員Ｄ】

収集時間が一定ではないため、大変だと周りから聞く。

【アドバイザー】

収集時間など、事業者間の連携について記載するか。

【委員Ｄ】

事業者は契約によって変わる可能性があるので、事業者間ではなく、担当課から指導するなど、調整を行ってほしい。

【委員Ｃ】

「千歳市ふれあい収集」など、あまり市民に知られていないと思うので、周知に努めていただきたい。

【アドバイザー】

良い取組だと思うので「維持」の理由として記載する。

【委員Ｂ】

新設する焼却施設の運用が今後始まるので、準備を始めたほうがよいと思う。広域行政の推進の観点から、企画部や関係各部との連携に努めてほしい。

（５）快適な学校施設の整備

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

ICT機器の整備を計画的に実施していることについて評価できるとの意見が多い。

【委員Ｂ】

委員Ｃの意見に「今後もその方向性であることから維持が妥当」とあるが、そのとおりだと思う。

ヒアリングでは、生徒数増加による学校施設の整備について議論があった。生徒数が増えてしまったからのほうが話を動かしやすいのかもしれないが、大変な思いをする子どもたちがいるということなので、そうならないように対応してほしい。

【委員Ａ】

ある特定の地域は増えていくことが明確なので、対応してほしい。